

旧国道36号
「やすらぎ歩行空間プラン」対象区間

“みち”の愛称を募集します!

清田区では「やすらぎ歩行空間プラン」に基づき、地域の皆さんと対象区間の魅力アップに向けた取り組みを行っています。そこで今回、親しみを持ってこの“みち”を利用してもらえるよう、愛称を募集します。歴史や雰囲気にあった愛称をぜひお寄せください!

※ 画像やイラストはあくまでイメージであり、実際と異なることがあります。



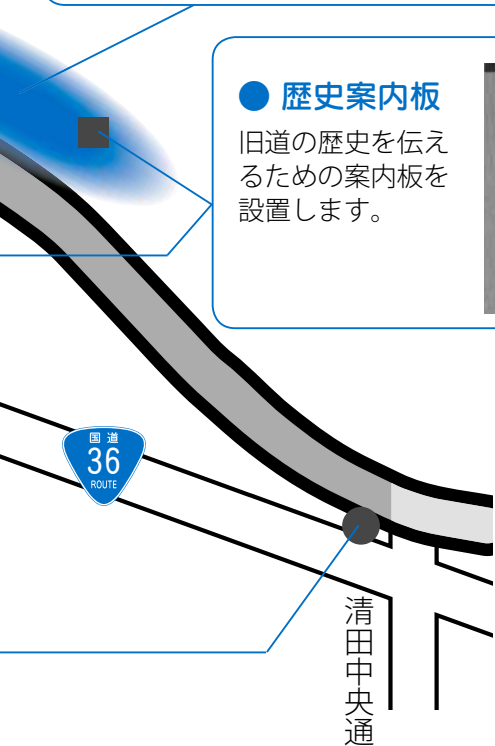
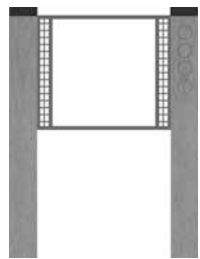
● 散策路

遊歩道を拡幅し、広いスペースと美しい桜並木を生かした散策空間とします。



● 歴史案内板

旧道の歴史を伝えるための案内板を設置します。

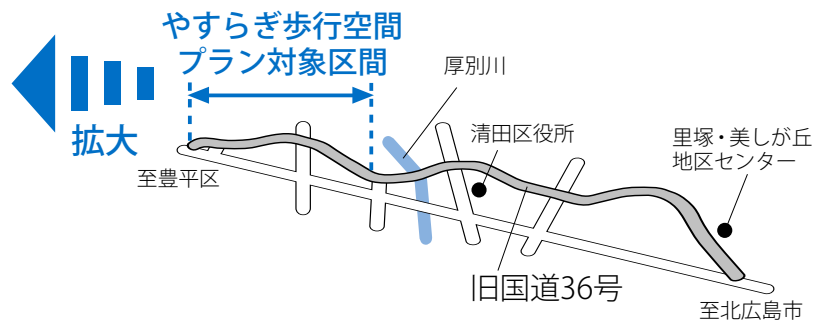


■ やすらぎ歩行空間プランとは? 桜並木や遊歩道を生かした憩いの空間を目指して

旧国道36号のうち、北野1条2丁目～清田1条1丁目の区間は、広い遊歩道スペースや桜並木などの素晴らしい地域資源に恵まれています。

そこで、それらを生かした、歩行者が心地よく利用できる“みちづくり”を目指し、地域の方などが集まり議論を重ねました。そして、平成22年9月に“みち”のイメージを「やすらぎ歩行空間プラン」としてまとめました。

現在、平成26年度の完成を目指して散策路の整備に取り掛かるとともに、区民が主体となって環境美化やウォーキングなど、“みち”の魅力アップや積極的な利用に向けた取り組みも進めています。



■ 旧国道36号の歴史 「あしりべつ」の発展とともに

清田区の中心部一帯はかつて「あしりべつ」と呼ばれていました。今でも厚別川を親しみをこめて「あしりべつ川」と呼ぶなど、その名前が残っています。

明治6年、国道36号の基となる札幌本道(室蘭街道)が開通し、あしりべつへの入植が始まりました。この道沿いで米作りが始まり、神社や小学校が設立され、清田地区は発展していきました。

昭和28年に国道36号が開通。アスファルト舗装の技術が取り入れられるなど、近代的な道路工事の先駆けとなり、当時は「弾丸道路」と呼ばれていました。

昭和46年に国道の一部(北野～里塚)の直線化により現在の国道に切り替わった後も、元の道は「旧道」と呼ばれ、大切に利用されています。